

## 平成 26 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)

### 1 対 1 対 談 (玉城町) 会議録

- 1 開催日時：平成 26 年 6 月 24 日 (火) 13 時 00 分～14 時 00 分
- 2 開催場所：玉城町保健福祉会館 ふれあいホール
- 3 対談市町名：玉城町 (玉城町長 辻村 修一)
- 4 対談項目：
  - (1) 少子化・超高齢化対策について
  - (2) 教育力向上について

#### 5 会議録

##### (1) あいさつ

###### 知 事

皆さん、こんにちは。今日は辻村町長もお時間をいただきましてありがとうございます。この玉城町での 3 回目の 1 対 1 対談になろうかと思いますが、今日もよろしくをお願いします。

議論に入る前に、まずは先般 6 月 21 日に熊野古道世界遺産登録 10 周年を記念しての伊勢路踏破ウォークの出発式をやったわけですが、大変お忙しい中、町長にもお越しをいただきましてありがとうございます。また、その日には多くの皆さんが玉城のほうにも訪れさせていただいたということで、これからはぜひ熊野古道の発信にご協力をいただければと思います。

それから、今日、先ほどこの玉城町に立地をします京セラさんで新工場の設立の始動式があったと聞いています。私は公務の都合で出られませんでした。石垣副知事が参加をさせていただいて、ますますこの玉城の地でマザー工場として、今後、更なる発展を京セラさんも考えていただいていると聞いておりますので、心強い限りでありますし、そういう新たな投資に対しまして、三重県もできる限りのサポートをしていきたいと思っております。

今日はそういう話もさることながら、最近、極点社会とか消滅自治体とか、いろいろ東京のほうでも発表があったりする中で、人口減少、あるいは人づくり、人の暮らす場をどういうふうに魅力的にしていくかというのは、大変重要な課題になっているところでありまして、そういう課題について、町長と一歩でも半歩でも前へ進めるような議論ができるようにと思っておりますので、限られた時間ですが、どうぞよろしくお願いします。ありがとうございます。

###### 玉城町長

鈴木知事には度々玉城町のほうへもおいでいただいて、そして、意見交換の機会を設けていただいておりますことを本当にうれしく思っています。

知事のお陰で、今もご紹介をいただきましたが、たった今、京セラソリュー

ションさんのカラートナーのプラント、第6工場が竣工いただきまして、知事は他のところでお忙しくて石垣副知事さんがご出席をいただきましたが、この工場も地球環境に配慮した世界で注目の省エネの工場ということですし、また、つい先日は錠前のメーカーの美和ロックさんが地鎮祭を起工いただきまして、今年から2年かけて、錠前のメーカーとしては世界トップの工場玉城工場が完成する予定になってございまして、本当にいろんな面でご支援をいただいているお陰でございまして、ありがたく思っています。

それと、今、カツラギさんは、情報を聞きましたら、カツラギさんという方は、先ほどの知事のお話のように、この21日に内宮を出発して熊野古道10周年の、そして、熊野古道踏破ウォーク、知事とバレエの浅尾さん、そして、カツラギさんという浅尾さんの高校の2年後輩ですが、吉本の漫才師さん、出発されて、その日、21日に玉城町へカツラギさんがお越しになって、そして、22日からずっと熊野まで10日間かけて巡礼姿で歩いていただくということで、今、紀北町の荷坂峠の付近だそうです。そんな情報が入りました。

知事には、本当に三重県の南部のこと、そして、世界遺産登録の熊野が10周年を迎えたというようなこと。皆さんご承知のように、大神宮をお参りなさった方々は、この田丸の町ですげ傘やおいずる姿に変えて旅立たれたと、こういう町でありますから、町もこの機会に町のそういう歴史をPRをして、そして、昔からありましたおもてなしの心をつないでいきたいと思っています。

もう一つお礼を申し上げたいのが、人材育成ということで力を入れていただいております、知事のところで盛んにいつもお仕事をなさっております、三重大の副学長西村訓弘先生にもアドバイスいただいて、「南部未来塾」というのを立ち上げていただいております、それも職員が勉強をさせていただいているということで、本当にうれしく思っています。

町としてありがたいことに、後ほどお話の中でも触れさせていただきますが、ついこの間の「日本創生会議」の増田代表が発表なされたときのデータで、データが間違っていないかと思うぐらい、三重県で人口の減少率が一番少ない町という発表がございまして、そこにもデータをお届けさせていただいておりますが、ただ、今は人口が去年一昨年から比べますと、360人ぐらい増えておるんです。ちょっと驚いているんですが、本当かどうか、もう一回チェックをせなにかんかなと思うぐらいのことですが。要は今はいいいですが、あと10年20年、将来を眺めて、玉城町として今から大事なことをどう取り組んでいくのかということ、そして、いろんな知事のご意見もお聞かせいただきながら、町政を推進させていただきたいという想いでおりますので、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございます。

## (2) 対 談

### 1 少子化・超高齢化対策について

#### 玉城町長

知事のご挨拶の中でも触れていただきましたが、超高齢化対策をどうしていくのかということは、知事は就任のときから大変力を入れていただいています。ありがたく思っています。

若い人たちが結婚して、良い環境の中で子どもを産み育てることができる、そういう世の中にしていかなければと思っています。いろんな施策を進めたいと思っていますが、具体的などころでお話をさせていただきたいと思っていますが、働くお母さん方が増えてきておりますし、働くお母さんが働きやすい環境を創っていくことが大事です。

そんな中で広域保育という制度があります。住所は隣の町であっても、いろんな里帰りとか親元へ帰って出産の支度、あるいは、お仕事の都合で子どもさんをどうしても自分が仕事の出勤のときに預けて、帰りに迎えに来て、そして、町外、自分の住所地へ帰られるという広域保育制度という制度がありますが、玉城はそういう制度を受け入れています。

ところが、いろんな自治体の事情もあるんだと思います。あると思いますが、できれば地域同士が連携をして、いろんな事情があるかわかりませんが、そういう働きやすい環境をつくってあげるのが大事と違うかと思しますので、そんなふうに今思っておることを、知事のお話も聞かせていただきながら、ちょっとでもうまく隣の市町さんと連携していくといいなという思いを持っております。

#### 知 事

ありがとうございます。ご存じない方もいらっしゃるかもしれないので、改めて申し上げますと、広域保育というのは、例えば玉城町に住んでいるが、ほかの仕事の関係で、例えば、伊勢市なら伊勢市の保育所にも入れるようにすることを可能にしようと、本来であれば玉城町でなければいけないのを、いろんな事情でということをやっています。29の市町がある中で、三重県の場合は、広域保育を受け入れてもいい、自分の市の子どもたちだけではなく、事情があって他市町から来る子どもも受け入れてもいいと言ってくれている市町が24あります。5つの市町だけが、既に毎年、自分たちの市の子どもたちだけで100%の入所率とか、ニーズが多分ないとか、そういうことで受入をしていない状況です。

今、保育の制度というのは、変わろうとしていて、今度、平成27年4月から「子ども・子育て支援新制度」という保育全般の制度がいろいろ変わってい

く時期を迎えています。なので、今年は来年に向けていろんな準備をしていかなければいけない時期です。

例えば、どういうことを検討するかというと、27年度以降に子どもたちが何人ぐらいになって、保育所が必要な子どもたちが何人ぐらいになって、では、そのために保育士が何人ぐらい必要で、どういう地域にどういうふうに必要な、「需給調査」と言ったりしますが、そういうのをやらないといけないことになっています。この27年4月の「子ども・子育て支援新制度」がスタートをするにあたり、いろんな話し合いをする中で、県も一応広域保育については総合調整の役割を果たしなさいということが児童福祉法に書いてありますので、この新制度を作っていく議論の中で、広域保育をなるべく受け入れてもらえるような形の話し合いに積極的に参加をして、一人でも多くの子ども、あるいは一人でも多くの働いているお父さんお母さんの支援になるように、そんな形でできればと思っています。

一方で受け入れて保育をやっていただくのは、基本的には市や町の事務ですので、押しつけもあまりできないので、よく話し合いをしながらやれたらと思います。

#### 玉城町長

ありがとうございます。私どもも伊勢を中心にしまして定住自立圏の総務省から指定をいただきましたので、そういうような発言であると、連携をしていく、今の広域保育のことも話し合いをしていくのは大事だと思っています。それぞれの市町の皆さん方にも十分ご理解をいただいていると思っていますので、働きかけていきたいと思っています。ありがとうございます。

知事には男性の育児参画の取組を積極的に、今度、ファザーリングの全国フォーラムというのがありますね。それも開催いただきますし、そして、母子手帳を出産のときに渡しますが、玉城のは「たまパパノート（仮称）」という、こんなのを作りました。これをお父さんに渡そうと思って、今、検討しています。

#### 知 事

もう配られているんですか。

#### 玉城町長

いえ、もうちょっと内容を詰めまして、大分できておりますが、そういうことで、もっともっと力を入れていきたいと思っています。

#### 知 事

いいですね。今、県としては男性の育児参画を進めていこうと。いろいろアンケートみたいなのを取ってみると、世代によっては「男はそんなのやらんでええと」、「仕事をしてお金をたくさん稼いできたらいいんや」という人もおられるのも事実ですが、実際にこの家計を成り立たせていくためにも女性が働く、あるいは、女性が働いて活躍してくれることで経済もよくなる、そういうようなこともありますので、男性も育児の参画を積極的にやっていこうということで、「みえの育児男子プロジェクト」というのを今やってまして、これは子どものときに海とか川でいっぱい遊んだ子どもは、大人になったら最後まで何事もやり遂げたいとか、いろんなことを学んでみたいとか、そのように答える率が高いと言われていまして、子どものときにお父さんが、洗濯が下手でも、料理が下手でも、掃除は下手でも、しっかり子どもと一緒に遊んでやることでもいいから、育児に男性がしっかりと参画をするということで、子どもの育っていくことに貢献していこうということをやっています。

一方で、私も育児休暇を取ったり、育児に参画してみても初めて分かりましたが、分からないことがいっぱいあるんですね。なので、そういう手帳みたいな、ほかの全国の自治体でも父子手帳とかイクメンパパ手帳とか配っているところが結構ありますが、基礎的な知識を知ってもらおう。

育児とはということもさることながら、奥さんが妊娠していくと女性の体にもどういう変調があるのかとか、そういうことはなかなか学ぶ機会もないし知らないですが、知っておくと奥さんの助けにもなるし、子どもの助けにもなるしということでもいっぱいあると思うので、そういう手帳で知識、あとは子どもの成長のことを書き込めるようなところがあると、非常に思い出にも残るしいいんじゃないかと思う取組ですので、ぜひ期待をしていますので、よろしくお願ひします。

あと、保育の関係では、町長もご心配いただいていると思いますが、保育士の確保を、保育所をいっぱいつくっても保育士さんがいなければ、量だけ増えても質が良くないと、子どもたちを見る保育士さんがいないといけないので、保育士さんの確保は大変重要な課題でありまして、県としても保育士の資格を持っていても、結婚したり子どもができて保育士を辞めたという「潜在保育士」と言われる人ですが、結構たくさんいらっしゃるんで、そういう人たちの調査と掘り起こしを県としても行ったり、あるいは、保育士を目指す人たちに保育士の仕事の楽しさを理解してもらおうセミナーみたいなものも開催して、何とか保育士を掘り起こしと確保に取り組んでいきたいと思っています。

## 玉城町長

知事、もう一つの今度はお年寄りの皆さん方、寿命が延びて本当にいいことですが、認知症の問題もありますので、最近、特にこんな小さな町であっても、

少し行方不明の捜索をしてほしいという要請がございます。それにすぐさま、町の職員や消防の方、警察の皆さん方にかなり協力をいただきますので、いい形で連携は取れていますが、かなりそういう方々は、思っているより早いスピードというか、遠いところまで歩いて行かれる方が多いです。したがって、何か統一したといえますか、一つの捜索システムみたいなものが考えられるといいなと今思っています。

この間もそういうことが起こりまして、隣の伊勢市さんに協力を依頼しましたら、伊勢の無線ですぐに流していただきまして、見つかったこともあったりします。今のこの社会の中でそういう方々が増えてきて、その対策を講じなければならないことは大事なことになってきていますので、何とか対策を町と近隣と力を合わせて、すぐに捜索できるような体制が取れるといいと思っております。

## 知 事

そうですね。本当に認知症が原因で行方不明になってしまった高齢者の方というのが、全国で去年が1万300人の方がそういう状況になったと聞いています。そういうのを地域で見守っていこうというネットワークみたいなものを各市や町でつくっていただいているところもありまして、三重県の場合は15のネットワークがあります。そういうネットワークで、少し認知症の方は誰々さんのところに何人いるとかいうのをネットワークの皆さんで把握をしておいて、注意しながら見守って、もしいなくなっても、すぐみんなで捜そうというふうにできるようなネットワークをつくっているところがあります。そういうネットワークづくりのための支援の交付金みたいなものを県も持っていますので、ぜひ、各市町でそういうネットワークづくりの交付金の支援を活用していただけるとありがたいと思っています。

先ほど町長がおっしゃっていただいた統一的なシステムということですが、市や町の中でいなくなってしまった場合は、このネットワークの皆さんで捜していただいたりするケースがまず最初だと思います。地域を越えてとなると、基本的には捜索となると警察で捜索していただくのがベースだと思いますが、警察でも早く見つけ出そうと思うと、どういう人がどの地域にいらっしゃるかという情報を事前に警察が知っておく必要があると思います。

今年の3月だったと思いますが、警察に登録する県統一の情報登録シートの様式みたいなものを埼玉県で作り始めましたので、県もそういうのができないかということで、県内統一で警察に対して認知症の方の徘徊、捜索のための情報提供の仕組みみたいなものを検討をしてみようと思っております。そういう中で市町の皆さんからこういう情報が必要ではないか、こういう情報があったほうが捜してもらいやすいのではというようなご意見をいただきながらやって

いければと思います。

### 玉城町長

いろいろ検討をいただいてありがとうございます。町のボランティアの方の活動が非常にありがたくて、「認知症サポーターさくら」という団体がございまして、この間も新聞で大きく熱心な取組が報道されたり、愛知県の県会議員さんらが視察にお越しにいたりしています。当たり前ですが、地域でそういう人たちを支えていこうというところでの意識、そして、そういうボランティアの方々が段々増えてきておることは、本当にありがたく思っています。これから一番大事なこととして、そういう方をお家でお過ごしいただくにしても、自分のところの家だけではどうしてもみることができない。したがって、ああいう皆さん方と一緒にカバーしていこうと、こういうことに力を入れていきたいと思っていますので、ありがとうございます。また、よろしくお願ひします。

### 知 事

認知症サポーターのさくらの皆さんの取組を、私は資料で勉強してきていますが、せっかくですのでご紹介いただいてもいいですか。町民の皆さんに来ていただいていますし、テレビもありますので。

### 玉城町職員

サポーターさくらのご案内をさせていただきます。玉城町では認知症の方に対して支援をしていこうということで、「サポーター養成講座」というのを開いておりますが、2時間、3回連続ということで、深く認知症を知っていただくという講座になっています。その講座を受けていただいた人の中から、何か私にもできないかということで、自主活動グループ「サポーターさくら」をつくらうということで結成されました。

どういことをされているかといいますと、介護保険を受けてデイサービスとか行っておられるのですが、デイサービスへ行くということが社会とのつながりになっていて、デイサービスから外の世界へはなかなか行くことができない。それは、デイサービスの職員さんのサービスも限られているのでそれ以上のことはできないということで、そのデイサービスの中なので、外出支援とかイベントをするときに、ぜひお手伝いに行こうということで、町内の施設の中でイベントがあるときに、サポーターさくらさんがお手伝いに行くことをまず1つしていただいています。

在宅にいらっしゃる方がお買い物に行きたくても行けないときに、一緒にお買い物に行っていただくような支援もしてもらっていますし、玉城町では認知

症の方の介護予防教室ということで、「健（脚）健（脳）教室」というのを毎週1回開いています。そこにサポーターとしてサポーターさくらの方がいらっしやいます。

認知症になりますと、いろいろ怒られたり叱られたりすることが多くなってきまして、寂しい気持ちでいらっしやる方が多い。その人をサポーターさくらさんが教室に来てくれたときに、「待ってましたよ」「よく来ていただきましたね」ということで優しく迎える。それで、その時間を楽しく過ごしてもらおうということで、認知症の方の気持ちを明るくするような支えの役割を担っていただいています。

それから、徘徊のこともありまして、地域で徘徊模擬訓練、徘徊の方がいらっしやったときにどういうふうに声掛けをすれば、その人がそこに留まってもらうことができるかという訓練をさせていただいてまして、勝田町と玉城苑というところで実際に行ってもらいました。そういう訓練をするときにも、サポーターさくらの方が徘徊役や声かけの役に参加してもらいますし、ただ訓練だけでは楽しくないので、そこで反省会を開くときに、一緒に食べる時のカレー作りをサポーターさくらの人たちが手伝ったりしてくれています。そういう形で様々なイベントに参加したり、もちろんサポーター養成講座のときには、その講座の講師をサポーターさくらの方たちが務めてくださっているということです。

この間の行方不明になられた方がありましたが、私どもも名簿を持っていますので、こういう方がありますので助けていただけますかと連絡すると、「わかった」ということで、「私はどこにさがしにいったらいい?」、「私は誰に連絡したらいい?」と言ってお知らせして、すぐ活動をしていただけます。様々な形で支援をしていただいています。

認知症の問題ですが、誰がなるかもわかりませんし、勉強したけどなった人がかわいそうというのではなく、本当に自分の問題として受け止めてもらって、認知症の人はこういう気持ちでいるんだなというところで、お友だちというか、その人の支えというか、後ろ側から支援していただく方に一人ひとりの方がなっていたらいい、本当にありがたいと思っています。

お時間をいただきまして、ありがとうございました。

## 知 事

ありがとうございました。町長、何か追加があれば。

## 玉城町長

本当に認知症サポーターの人たちが熱心な取組をしていただいていますので、もっともっとこのサポーターの中へ入っていただいて取り組んでやろうとい

う人がみえましたら、ぜひお願いしたいと思っています。

### 玉城町長

県も認知症サポーターの方の数をふやしていこうというのを、一つの県民力ビジョンという三重県の全体のベースの計画の介護のところの目標に掲げて、今やらせていただいています。元々、平成 22 年度に 49,385 人いらっしゃる認知症サポーターの方を、27 年度までに 87,500 人にしようという目標を立てていたのですが、多くの先ほどのさくらさんも含めて市町の皆さんのご協力によりまして、既に昨年度、25 年度で 94,762 人ということで、来年、目標としては 87,500 人を既に大きく上回るぐらい認知症サポーターの皆さんにたくさんなっていただきました。これは、先ほどのさくらさんをはじめとした認知症サポーターになっていただいた皆さんが、いろんな人に認知症のサポーターの必要性を訴えていただいたりしたお陰だと思えます。

認知症というのは、私、ある脳神経外科の先生に聞いたのですが、寿命が伸びていけば脳の老化として当たり前のように起こるものなので、何か特別なことではなくて、ほとんどの人があり得ることだから、みんなに、先ほど町職員の方もおっしゃっていたように自分のこととして捉えるべきだということも脳外科の先生もおっしゃっていたので、脳の機能として元々 60 年や 50 年しか生きることが予定されていなかった脳が、寿命が延びたことによって、その脳の機能が低下することが認知症の原因であるらしいので、ぜひ、我々もそういうのを知っていかないかと思っています。

一方で、認知症サポーターの数は昨年度で 94,762 人になりましたが、サポーターさくらさんのような本当に積極的な活動をしているところはまだまだ少ないです。平成 24 年度一昨年の中には、そういう活動をしているのが 5 市町ありましたが、去年はそれがやっと 10 になりましたので、徐々に輪が広がっていているので、サポーターさくらさんの取組なども参考に、県としては市町の実情に合わせてサポーターの皆さんの取組が進んでいくような応援をしっかりと県として行っていきたいと思っていますし、ぜひ、関係の皆さんにもご協力いただければと思います。

### 玉城町長

もう一つ、町としては、これからのまちづくりの中で大事にしていきたいのは、健康で長生きしてもらう、健康寿命延伸のまちづくりというのを重点に力を入れたいと思っています。いろいろアドバイスをいただいたりしています。この間からここへも小宮山先生や大学の副学長さんにお越しいただいたり、岡相談役もお越しいただいています。

デマンドバスを活用して利用していただいている方々が、健康状態が良くな

って来ているというようなデータを、今、大学で因果関係を分析してくれています。

## 知 事

デマンドバスを利用して外へ出る回数が多い人とかは健康寿命が延びていると。

## 玉城町長

延びているというか、全体で医療費が下がってきています。もうちょっとしたら発表してくれると思うので楽しみにしています。ですので、要は、ご承知のように有名な鎌田實、ひげの先生のいろんなお話を聞かせてもらいながら、生きがいと人のつながりは大事だとよく聞かせていただいていますので、ここは町の一番の中心の会館になっておりますので、できるだけここで介護予防教室とかいろんな教室に出てきていただく、そして、バスを利用していただくという形で。そして、人と人との交流がある。そういう生きがいやつながりをもっと少し気をつけた形でいろんな健康づくりを進めたいと思っています。

## 知 事

そうですね、さっきのお話にもありましたように、家とデイサービスの往復みたいにしてたら、なかなか人のつながりなどはできないところを、一つ手段をデマンドバスでつくることで活動範囲が広がって、それが結果、健康や人のつながりにいい役割を果たしている、これはなかなか重要な視点ですし、そういう意味では子どもだけじゃなく高齢者にもやさしい町としてできていく、楽しみですね。

## 玉城町長

楽しみです。いろいろと。コンパクトな町なので、いろんな施策が展開しやすいんです。

## 知 事

デマンドバスのは、もちろんデマンドバスとしての今のような医療費の関係もあります。私が県として今、課題が大きくて一所懸命取り組んでいる障がい者雇用の関係でも、デマンドバスとかをうまく融通してくれたお陰で、通勤時間をずらすことができ、障がい者の人たちが地域で働くことができるようになったというような事例も聞いていますので。そういう意味ではいろんな活動範囲が広がる、福祉という視点でもいろんな機会が広がるデマンドバスですから、ますます注目ですね。期待をしています。よろしくお願ひします。

## 玉城町長

ありがとうございます。

## 玉城町長

もう1つは、超高齢化対応で、特にこれは国交省さんの関係でサービス付き高齢者住宅というのがあるんです。その住宅政策というのは、高齢者のための賃貸の住宅をつくっていきこうというところで国が推進しているわけですが。アパートに住んでもらって、いろんな在宅の介護サービスを受けられるという住宅ですが、なかなかこれが現実には少し問題があると聞いておりまして、その住宅を建てられ経営なさった方々が母体になって、いろんな居宅介護の支援事業所とかデイサービスの事業所とかヘルパー事業所などを併設しているというケースがございまして、なかなか他のところの目が入らないというか、チェックがかかりにくいという形で、例えば、本来は必要な介護があるわけですが、自立支援のための介護がありますが、過度なサービスによって、後は介護保険にも影響をしていくということがあったりいたしまして、少しそういうところで、そして、十分経験を積まれたスタッフの方々であるといいのですが、そうでもない場合もあるということで、これは国交省さんですが、少しそういうところでの厚労省さんとの連携、あるいは、県の立場でお話させていただきますと、もちろんそういう各部の連携のところでも少し気をつけていただくようなことがあるとありがたいと思っております。そういうことがありますので。

## 知 事

安心して介護サービスを利用してもらうためには、その法人さんとかがきちんとしたサービスをやっているところであるというのは大前提だと思っております。

今、町長からご指摘があったように、サービス付高齢者住宅という国交省の関係のサービスを、例えばデイサービスとかをやっている社会福祉法人が経営しているケースがあって、こっちのサービス付高齢者住宅は、デイサービスとかに通っていない人も含めて住んでいるケースがあるので、例えば、こちらのデイサービスを利用してない人も利用しているような形で、例えば、介護報酬の水増し請求をして不正に法人が利益を得ると、そういう事件が全国的にも多発している状況です。

なので、今、町長からおっしゃっていただいたように、三重県でも昨年度平成25年度から、特にサービス付高齢者住宅をデイサービスとかがやっている社会福祉法人が一体的に運営している場合に、適切にそのルールに基づいて不正な利益を得ていないかとか、虚偽の申告をしていないかということについ

て監査をする、福祉法人の監査の重点項目に昨年度からそれを入れて監査をすることにさせていただきました。なので、これからしっかりそういう部分を重点的に見ながら、引き続き、指導と監査をしっかりやっていくことにしていきたいと思っています。

そういうサービス付高齢者住宅にまつわるもの以外でも、最近、全国的にいろんな新聞報道などでも社会福祉法人の運営の在り方みたいなので、多くの方々は本当にまじめに利用者の方のことを思って一所懸命やっていたのに、そういう一部の意図的に不正行為をする人、あるいは、制度が複雑なので分からなくてそうなってしまった人、いろいろあるかと思いますが、まず、大半の人たちがまじめに真剣に利用者の方のことを思って福祉法人さんたちはサービスをやってもらっていますから、そういう人たちの頑張り無しにしないためにも、正直者がばかを見ることのないようにするためにも、そういう監査や指導についてはしっかりとやっていきたいと思っています。

#### 玉城町長

ありがとうございます。おっしゃるように本当に大半の方はまじめにやっておられるわけで、少し問題があれば、町としてもそういう情報をキャッチすれば、県の担当の方々と情報提供をしたり情報共有をしながらやっていかなければ。まず市民・町民の皆さんに迷惑のかからないようにしていかないかと思っていますので、ありがとうございます。

## 2 教育力向上について

#### 玉城町長

知事が一番このことに力を入れていただいて、本当にありがたく思っています。まさに人づくりに力を入れていただいて、いろんな取組を進めていただいていることを本当にうれしく思っています。後輩の大学生も知事のところへ挨拶に私も一緒に行きました。東大がよりタフに、よりグローバルな人材を育てていかないかんといい総長さんのお話で、玉城も2週間ぐらい、2人お越しをいただきまして、やはり一番大事なのは、おっしゃっておられるように、次の世代を担う人材育成は非常にこの町にとっても大事なことで思っております。特に小中学生の学力向上に力をもっと入れていかないかんと思っています。

県や県教委も力を入れていただいておりまして、玉城も及ばずながら様々な教育力向上の施策を講じさせていただいています。また、地域や家庭も一緒になって取り組んでいくことが大事だというのは当たり前ですが、特に県の学力向上に応じさせていただいた形で、「玉城町の学力向上推進会議」というのを立ち上げまして取り組んでいく。具体的には先生方が子どもたちの強み・弱み

のところをより把握しながら、問題を作っていたりしている結果が、もう少し過ぎると出ますが、大体今、予想するのが、以前よりも10ポイントか20ポイントぐらい、子どもたちの学力がアップしているということが予想されるので、非常に喜んでいきます。

もう1つは、土曜授業です。土曜授業も県の教育委員会の意向に沿いまして、三重県トップでスタートをさせていただいております。4月から月に1回という形でございまして、玉城の場合には特に学力向上に、体験とかいろんなことでもあります、文科省がやっていくようにというので、地域力とかいうので。玉城は特に学力向上を主に置いた形での、つまり子どもたちが、先生方が授業時間数を増やして、余裕を持って勉強できる。そして、じっくりと理解をさせて学力をつけさせようという考え方で進めさせていただいております。いろんなテレビや新聞でも盛んに報道をいただいていたのですが、ほぼ皆さん、ご理解をいただいでできておるといことです。

この7月が終わります、一度検証をしたいと思っています。そして、アンケートなんか聞きたいと思っています。

もう一つは、知事が力を入れたレゴの関係です。小学校における英語コミュニケーション力向上、これも一番早く手を挙げさせていただきまして、三重県では指定いただいたのが、津市と鈴鹿市と玉城町、この3つです。本当にありがたく思っています。こういうふうなことで、いろんな県教委の指定も受けながら学力向上に努めておる状況ですので、これからはいろんなアドバイスをしてほしいと思っています。

というところで、今、進めておる途中であります、何か知事からお話を聞かせていただくとありがたいと思います。

## 知 事

ありがとうございます。本当に玉城町さんは、辻村町長、教育長は熱心に取り組んでいただいているので、県の中でも先進的にやっていただいています。感謝しています。ありがとうございます。

学力向上の取組全体については、今から少し申し上げたいと思いますが、学力が大事だということ、そんな詰め込み教育はいかんというふうに言われるケースが時々あるんですが、それは大いなる誤解でありまして、何か自分が不得意だったりあるいは困難なこと、つまり勉強は面倒くさかったり大変なものではありませんが、大人になったら、社会へ出たらそういうことはたくさんある中で、そういうものから逃げずに目を背けずにあきらめずに頑張っていく、そういう姿勢を養っていく。そして、目標を持って計画的に物事を進めるということ学ぶことが、学力、物事を勉強していくことの中に僕はたくさんあると思います。大人になるためのトレーニングということで、学力は一つの手段として、

それが目的になってはいませんが、手段としてあると思っているので、私は学力向上が大事だと思っています。

カントという哲学者で思想家の人がヨーロッパにいましたが、彼は、大人と子どもの違いは何かとといいますと、大人と子どもの違いは、『目標を持ち、それを実行する計画を持って実行している人』、これが大人だと。だから、僕は勉強というのは目標を持って、それをどういうふういつまでにやるという計画を持って、それをちゃんと実行するという以外にほかならないと思っていますので。子どもが大人になっていくために必要なこと、手段として必要なことは僕は学力だと、勉強だと思っていますので、だから、子どもたちにあきらめたり目を背けずにやってほしいから、だから、地域の大人が、家庭で親が、学校で先生方が子どもたちにそうやって向かい合っしてほしい。そういう想いで学力向上を一所懸命やろうとしています。

これは学校だけでできることではありません。確かに学校が勉強するところですが、学校だけではできません。家庭、地域、そういうサポートが必要です。例えば、三重県の子どもたちの特徴でいくと、家庭での学習、家で予習・復習をやる時間が全国の子どもたちに比べて少ないんです。家でテレビを見たりインターネットを触っている時間が全国の子どもたちより長いんです。なので、家でもう少し勉強する、そんな環境を親でつくってあげる。

でも、お父さんお母さんも仕事があったり、あるいは、一人親のお母さんでそういうのができないようなときがある。そういうときは放課後、地域の皆さんで面倒を見てあげて、その子どもたちが勉強をできる環境をつくってあげる。だから、勉強は学校だけではなくて、家庭・地域・学校全部でやらなきゃいけないことだと思ってまして、24年度から三重県では「みえの学力向上県民運動」というのをスタートさせていただいて、学校・家庭・地域それぞれでやってほしいと。

次は学校の部分について少し話をします。学校では特に授業をどういう授業にするか。子どもたちが分かりやすく楽しんでいける授業が大事ですので、その授業を改善していくモデルといいますか、先生がある教材を作った、これが非常に良かった。では、これをみんなで共有しようということとか、あるいは、福井県に県の教育委員会の職員を派遣して分かったのと、あと、東日本大震災の後、福島県から三重県に子どもを連れて避難してきた親御さんのお母さんから言われたんですが、三重県の小学校は宿題が少ないと。福島はもっと多いと、だから心配だという声を、私、避難者の方々と防災の意見交換で行ったのに、宿題が少ないと言われたことがあります。でも、先生、宿題出してと先生に全部押しつけるのではなく、どういう宿題の出し方が有効だったかとか、そういうのを先生方と共有できるような仕組みを作ったりとか、あるいは、宿題をやるのはお父さんお母さんもおじいちゃんおばあちゃんもちゃんとサポ

ートしてほしいから、そういうことの重要性を知ってほしいというような働きかけもさせてもらったりしています。

あとは、県のPTA連合会の皆さんと県の教育委員会が連携して、子どもたちの「生活習慣チェックシート」というのを作ってくれました。これは、さっきも言いましたように、家で宿題をやらずにテレビやインターネットを見ている時間が多い。あるいは、たくさん寝るのはいいことですが、遅寝遅起きみたいなので朝ご飯を食べないのはいけないので、そういう生活習慣を家庭でPTAの皆さんが、親の皆さんがチェックできるようなチェックシート作っていただいたので、そういうのを普及をしていきたいと思ったりしています。そんな取組を様々やりながらですが。

先ほど町長から言っていたいただいた土曜授業と英語教育ですが、土曜授業は、29市町ある中で、今年度からやっていただくところが22あります。大半やっていただくことになってまして、来年度からが2つありますので、今、5つが検討中です。玉城町はいの一番にやっていただいた。

国の指針によると、土曜を使って学力の補充に充ててもいいし、海とか山へ行って体験活動みたいなのに充ててもいいということですが、玉城町としては学力でいこうとやっていただいている、大変ありがたく思っているところです。

私どもがいろんな方にお聞きしても、子どもたちも家で過ごすより、学校に来て友達と会えるのがうれしいとか、中には土曜日ゆっくりと休みたいという子どももいるみたいですが、おおむね子どもたちも、土曜日の授業を欠席する子もいないようであります。保護者や地域住民の皆さんからも、ここにいらっしゃる方々でもそうかもしれないし、自分たちが子どものときは土曜日に授業があったので、土曜日の授業が始まったことはおおむね好評だというようなことも聞いています。教職員の皆さんも現場でしっかりと理解をしていただいているということも聞いています。

一方で、スポーツ少年団の活動との兼ね合いとか、いくつか課題はあると聞いていますが、それでも、おおむね実際に参加していただいた方たちからは、あるいは、周りのお父さんお母さんからはいい評価をいただいて玉城町の土曜日の授業をやっていただいていると聞いておりますので、ぜひ、先ほど町長がおっしゃっていただいた1学期の末に行うアンケートで、いろんな課題を聞いていただいて、我々にも教えていただくと、我々もいろんな改善につなげていきたいと思えます。

あと、英語教育のところは、「レゴブロック」という世界で170ヶ国の子どもたちが使っているブロックがありますが。これは三重県教育委員会が日本で初めて自治体としてレゴブロックと協定を結んで、レゴブロックを使って、バラバラのブロックのまとまりを渡されて、それをチームを組んで小学生や中学生が、例えば、10年後の玉城町とかいうテーマを与えられて、それを英語でし

やべりながらブロックをチームで組み立てて、最後、その組み立てたのをみんなの前で英語でプレゼンテーション、説明をするという教育プログラムがあるんですが、そういうのを導入していただいて、玉城町や津市、鈴鹿市の子どもは、今回、モデル的にやっていただくということで、非常にありがたく思っています。そこでもまたいろんな成果、いいことや課題もあろうかと思っておりますので、また教えていただいて、県もそういう玉城で先頭を切ってやっていただいた取組が全県に広がっていくように、あるいは、全国に自慢できるような形に改善していきたいと思っておりますので、またいろいろ教えていただけるとありがたいと思っております。

### 玉城町長

ありがとうございます。お話聞かせていただきましたように、土曜授業も県下統一して進めていただくということでありがたく思っていますし、少し気になっておりますのが、この間、新聞での情報ですと、子ども若者白書の結果を聞きますと、国の政府の発表では、日本の若い人たちは将来にあまり希望をもっていないというような結果が出ているようですが、しかし、やはりこれからそういうふうな若い人たちのことを大人が一所懸命になって取り組んでいくことで、少しでも将来に夢や希望が持てるような、そういう若い人たちの社会をつくっていくことが大事だと思っています。町としてもこのことにもっともっと力を入れていきたいと思っています。

もう一つは、この前も知事と隣の会議室でもお話をさせていただいたような、ああいう「ノーバディーズ・パーフェクト」のことなども、非常にこれからも続けていきたいと思っています。いろんなきめ細かい施策、冒頭の少子化対策もそうですが、そういうきめ細やかなことを一つひとつ取り組んでいくことに力を入れていきたいと思っていますので、これからもアドバイスをいただきたいと思っています。

### 知 事

ありがとうございます。ノーバディーズ・パーフェクトの取組は、本当にいいと思います。私も今、2歳の息子がいます、これがめちゃくちゃ可愛いんです。毎日新しい言葉を覚えたり、今とても可愛いんですが、それは置いておきます。

子育てしている同世代の人たちに、僕が子育てトークみたいなので一番みんな知事のあの言葉に感動しましたと言ってもらうのが一番多いのは、子育てに完璧がないということを僕はいつも言うわけです。それは、つまり完璧を求めようとすると、特に旦那さんが忙しくてお母さんが一人で育てている場合は、自分を追い込んで自分がストレスになって、それが不安になって児童虐待をし

てみたり育児放棄になってしまうケースがあるので、完璧じゃないと、自分のやり方でやっていけばいいというようなこと、ノーバディーズ・パーフェクトというのは、まさに親に完璧ではないが、自分がその子どもを愛することが立派なことで、それを大事にしていけばいいというメッセージのこもったプログラムだと思っています。

継続的な親同士の関係というのを作れている。特に三重県で女性の方からよく聞くのは、旦那さんの都合で結婚して県外から三重県に来られた若い女性で、そのときは子育てをするけども、同級生とかもないので非常に不安に感じているケースが多いので、ああいうノーバディーズ・パーフェクトみたいな継続的な親の関係ができる取組はすごくありがたいという声も聞いています。本当に玉城町さんのやっていたらいいという声も聞いているので、ぜひ、これからも先頭を切ってやっていただければと思いますので、よろしくお願いします。

### 玉城町長

町も子どもたちが自分の生まれた町、育った町のすばらしさ、良いところを誇りに思って育ててほしいと思ってまして、ここにある「ふるさとカルタ」というのを作ってもらいました。これはなかなかテレビでも新聞でも言っていたら大変な人気です。これを子どもたちの手作りで作っていただくことで、今、申し上げましたように自分たちの生まれ育った町を誇りに思って、そして、成長してもらって、そして、また地域のために頑張ろうということが循環していくといいなと思っていますので、またよろしくお願いします。

これ、後で知事に贈呈させていただきます。

## (3) 閉会挨拶

### 知事

今日は、平日の日中にも拘わらず、たくさんの1対1対談を傍聴に来ていただきました町民の皆さんに感謝申し上げます。

また、辻村町長にも今日はお時間をいただきまして、ありがとうございました。

今日の話題は、まさに暮らす町としての魅力の、高齢者の人も元気でいける。そして、子育てもしやすい、そういうような町にしていくにはどうしたらいいのかという共通項があったように思います。

これから本当に東京とかばかり、東京はこれからどんどん人が行ったら高齢化率もどんどん高くなって、高齢者の方ばかりになって、あるいは、合計特殊出生率というのは東京が一番低いわけですから、都会に行けば行くほど子育てもしにくい、介護もしにくいというような状況なので、やっぱり地方に魅力が

あると言うとき、では、具体的にどんなことがあるのかと言ったら、例えば、今日のお話のような、「玉城ではこんなことをやっていてよろしいやろ」と言えるような、そんな先頭切った事例を玉城町さんはやっていたいていると思っています。

今日もいくつか学ばせていただきましたし、さっきの認知症の方の徘徊の統一様式の作成とかもこの場で披露させていただいたり、約束もさせていただきましたので、そういう形でしっかりと取り組んでいきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

今日はどうもありがとうございました。